

まちの話題



大山

Oyama



認め合う心で溶かす男女の壁

12月6日、大山公民館で「令和3年度大山町人権講演会・男女共同参画セミナー」が行われた。講師はフリーアナウンサーの松本久美子氏。男女共同参画を進める上での課題や経験談を語った。参加者からは「お互いの価値観を認め、納得することが大事だと感じた」「今後の家庭生活や社会生活に生かしたい」などの感想が寄せられた。



リース作りで笑顔も華やぐ

12月2日、鎌手地区の女性たちが集まって、クリスマスリースを作った。この催しは、コロナ禍でもこのリースを見て笑顔になってもらいたいとの思いで行われた。材料の一部は前年の残りを活用し、環状に編んだ土台に松ぼっくりやリボンなどを彩り良く配置した。リースは大山振興局にも寄贈され、窓口などを華やかに彩った。



中津江

Nakatsuji



知って安心、介護制度

12月5日、中津江むらづくり役場の「イザという時への備え～介護保険の現場から」と題した講座が開かれ、31人が参加した。介護保険シリーズ4回目の今回は、講師に日田市社会福祉協議会の職員を招いて、介護認定までの流れや中津江村で利用できるサービスの内容などを学んだ。参加者は回を重ねるごとにイザという時への備えを身につけている。



みんなが主役のふるさとまつり

11月21日、中津江ホールで中津江村ふるさとまつりが行われた。新型コロナウイルス感染症対策で規模を縮小して開催されたが、約330人の来場者が地元バンドの演奏や小・中学生のステージ発表、なかつえ新鮮野菜市を楽しんだ。主催の中津江むらづくり役場の職員は「来年は40回目を記念して盛大に催したい」と話した。

上津江

Kamitsuji



サッカー選手との交流に大喜び！

12月21日、津江小・中学校で大分トリニータのサッカー教室が行われた。子供たちは、ボールを使って楽しく体を動かす練習を行い、選手との試合では身近で見るプロの華麗な動きに感動しながらも1点取ろうと懸命にボールを追いかけた。交流会ではたくさんの質問が出され「もう1試合やりたかった！」と選手との交流を楽しんでいた。



お腹いっぱいご飯を食べよう

12月8日、浦集落で2年ぶりに年の神祭りが行われた。年の神祭りはケガチ（凶作）の年に始まったと言われ、お椀に高く盛ったあずき飯を食べることが恒例になっている。そのため「高飯さま祭り」とも呼ばれている。参加者はあずき飯や煮物、酢和えなど昔から引き継がれる地元の味を楽しみながら交流を深めた。



差別のない社会の実現に向けて

12月18日、口演家の矢野大和さんを講師に招き、中津江村人権講演会が開催された。参加した31人は努力しても変えられない外見のことを言うのは差別であることや、何気ない親子や夫婦の会話の中にある人権についてユーモアを交えた話に聞き入っていた。笑いの中にも相手を大切に思うことの大事さを実感する講演となった。



地域で生かす防災力

12月9日、津江中学校で「第4回防災講座」が行われた。今回の講座では、講師にNPO法人リエラのメンバーを招き、災害が起きたときに生活の場となる避難所で自分たちに何ができるかを考えた。一昨年、避難所生活を体験した住民から当時の様子を聞きながら「困りごとがないか声掛けをする」など自分たちも地域の力になれることを学んでいた。